

災害ボランティア活動を 協働で支えるしくみ ～災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P)～

「うるうるパック」の作成・配布に関する説明資料について

2012年6月26日

1. 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議とは

- 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（以下：支援P）は、企業、NPO、社会福祉協議会、共同募金会等により構成されるネットワーク組織。
- 2004年の新潟中越地震後、2005年1月から中央共同募金会に設置。
- 平常時には、災害ボランティア活動の環境整備を目指して、調査・研究、人材育成や啓発活動を実施。
- 災害時には、人材・物資・資金など多くの社会資源が有機的かつ有効に活かされるよう、被災者の声に耳を傾けながら、被災者中心・地元主体の活動を支援。

運営体制

設置主体：社会福祉法人 中央共同募金会

委員（幹事 赤文字）

【事務局】 阿部 陽一郎（中央共同募金会）、石井 布紀子（さくらネット）

【社協】 野崎 吉康（全国社会福祉協議会）、北川 進（宮城県社会福祉協議会）

西原 弘将（大阪府社会福祉協議会）、戸崎 洋子（諏訪市社会福祉協議会）

【NPO】 田尻 佳史（日本NPOセンター）、栗田 暢之（レスキューストックヤード）、

桑原 英文（JPCom）、山岸 孝博（中越復興市民会議）

李 仁鉄（にいがた災害ボランティアネットワーク）、

白鳥 孝太（シャンティ国際ボランティア会）、

【共募】 鷹尾 大英（福井県共同募金会）、中島 孝夫（神奈川県共同募金会）

【企業】 野上田 縁（株式会社損害保険ジャパン）、（日本航空）

山ノ川 実夏（MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社）

1%（ワンパーセント）クラブ

【その他】 森本 勝也（日本青年会議所）、山内 明子（日本生活協同組合連合会）、

2011年度、2012年度臨時委員

後藤 麻理子（日本ボランティアコーディネーター協会）

吉実 正博（広島県共同募金会）

長谷部 治（神戸市社会福祉協議会）

2. 東日本大震災における支援Pによる活動概要

(1) 運営支援者の派遣

(2) 物資の提供

① 災害ボランティアセンターの運営資機材

② 被災者に直接届ける「うるうるパック」

(3) 企業人ボランティア・プログラムの実施

※ 上記に要する資金は、企業からの寄付で賄われた。

寄付企業数 45社・団体

総額7億6,418万円

(1) 運営支援者の派遣

被災3県の各災害ボランティアセンターに専門性と経験値のある人材を派遣し、被災した方々主体の災害ボランティアとなるよう支援。

① 派遣地域

	岩手県		宮城県		福島県
1	県本部	1	県本部	1	県本部
2	巡回	2	巡回	2	巡回
3	宮古市	3	気仙沼市	3	新地町
4	山田町	4	女川町	4	相馬市
5	大槌町	5	石巻市	5	南相馬市
6	釜石市	6	南三陸町	6	いわき市
7	大船渡市	7	東松島市	7	(只見町)
8	陸前高田市	8	岩沼市	8	(金山町)
		9	亘理町		
		10	山元町		



②派遣者数

(2011年3月12日～2012年3月31日)

	社協以外合計	社協合計	合計
巡回	125	12	137
岩手	1628	250	1878
宮城	981	271	1252
福島	808	858	1666
東日本大震災計	3542	1391	4933
新潟・福島 豪雨災害(福島)	39	85	124
新潟・福島 豪雨災害(新潟)	3	0	3
総計	3584	1476	5060

※ 日本ボランティアコーディネーター協会、大阪ボランティア協会、ACE、難民支援協会等のNPO/NGO、生協など、派遣団体が広がる。

(2) 物資の提供

① 災害ボランティアセンターの運営資機材

企業からの提供： プレハブ、パソコン、携帯電話、
車両、自転車、スクーター、飲料、土嚢袋 など
※その他、現地が必要とする資機材を購入・レンタル



②被災者に直接届ける「うるうるパック」

＜うるうるパック第1弾＞

- 新学年応援、子ども、レディースなど8,000セット。
- 28社・団体から物品提供。
- 4月5日、東京での詰合せ作業に、68社から280名、支援P関係者がボランティアとして参加。
- 4月8日、佐藤正敏1%クラブ会長が宮城県女川町に「新学年応援パック」等をお届け。
- その他、岩手、宮城、福島 of 災害VCで活用。




くうるうるパック第2弾>

- 第1弾で集まった物資の一部を名古屋に集約。
- 弁当箱や水筒、靴、傘など子どもたちの日用品を追加募集。6社・団体から追加で物品提供。
- 5月7日～8日、名古屋での詰め合わせ作業に、東海地方の22企業・グループの関係者と一般ボランティアが延べ約250人参加。
- 宮城県七ヶ浜に運ばれたパックは、5月9日～10日、町内の小中学校や幼稚園で配付。



<ご参考：うるうるパックとは>

- 被災地域の方々が必要とする物資を一旦県外で集約し、各世帯に配付できるようにパックしてお届けするもの。
- 災害ボランティアセンターで、被災者の方々とのコミュニケーションの円滑剤、被災者を応援する心を届ける手段として、知恵と工夫を凝らして配付。
- 支援Pだけでなく、現地災害VCやNPO／NGOにも、うるうるパックの意義が浸透し、手法が広がる。



被災されたみなさまへ

このたびは、突然の地震による被害に遭われたこと、心からお見舞い申し上げます。

この「うるうるパック」は、企業とNPOの方からのささやかなお見舞いの気持ちです。

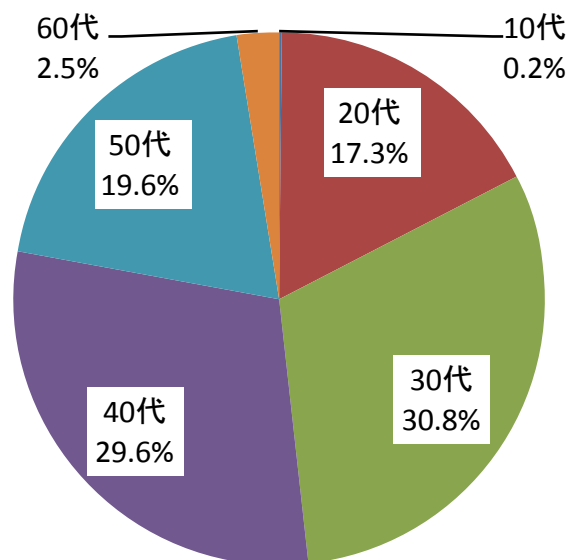
一日も早い復興をお祈り申し上げます。

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議

うるうる
パック

(3) 企業人ボランティア・プログラムの実施

- ◆主催： 支援P
- ◆参加者募集： 1% (ワンパーセント) クラブ
- ◆実施時期： 4月下旬～8月下旬までに20回
- ◆活動先： 岩手県(10回) 宮城県(3回) 福島県(7回)
- ◆参加者数： 49社・グループ 延べ642名 (Co 延べ69名)
→総活動人数 延べ2101名



➤男女比 7:3

➤災害ボランティア活動未経験者 8割

